

三井アウトレットパーク木更津

MITSUI OUTLET PARK KISARAZU

No. 23-008-2012作成

新築
物販／飲食

発注者	三井不動産株式会社	カテゴリー				
設計・監理	三井住友建設株式会社一級建築士事務所 SUMITOMO MITSUI CONSTRUCTION CO.,LTD	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO ₂ 技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術／FB	
施工	三井住友建設株式会社東京建築支店	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
		I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		

環境に配慮した東日本最大規模のアウトレットモール

施設コンセプト

施設は東京湾アクアラインの千葉県側の着岸点である千葉県木更津市の木更津金田ICより約1kmに位置し、千葉県内はもとより、東京都心および神奈川県沿岸エリアを含めた首都圏広域からのアクセスに優れた立地にある。施設のデザインは「BOSO CITY RESORT」をデザインコンセプトとして、海沿いの自然豊かな房総の丘に生まれる、洗練された都市の中のリゾート空間の創出を心がけた。

環境に配慮した施設構成

施設は地上1階平屋建ての構造とし、モール通路屋根は部分的に吊構造とし、底を支える柱を無くし、開放的なモール空間を設計した。当施設ではさまざまな省エネルギー及び環境に配慮した設計を行っており、エントランスには壁面緑化をほどこし、訪れた来客者へ対し緑が身近に感じられるように配慮すると共に、建物の温度上昇を抑える効果を持たせた。施設の中心に位置するピアストリートは、波型の形をしたtent膜の大空間により直射日光を遮り、利用者の休み処となる半屋外空間を創り出した。tent膜は光触媒を施すなど環境浄化効果を兼ね備えた大空間とした。大空間であるフードコートはハイサイドライトにより自然の光の中での食事を可能とし、日射をコントロールする自動木製ルーバーを設置している。また、フードコートは災害時の帰宅困難者滞在スペースとして想定し、非常用の電源供給等の計画を行っている。フードコートの屋上は季節のハーブを植えた「オーシャンビューテラス」として整備、デッキ床やベンチは遮熱タイプの再生木デッキを採用し、夏場の温度上昇を抑える計画としている。



南西側鳥瞰（建物屋根に太陽光発電パネルを設置）



イーストゲート（壁面緑化）



ピアストリート（光触媒tent膜）

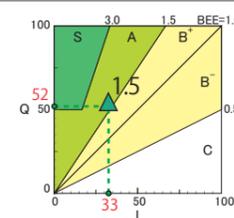


コーストプラザ



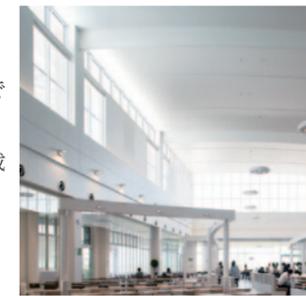
モール（吊構造の外部廊下底）

建物データ	省エネルギー性能	CASBEE評価
所在地	PAL削減	Aランク
竣工年	ERR (CASBEE準拠)	BEE=1.5
敷地面積	LCCO ₂ 削減	2008年度版
延床面積		自己評価
構造		
階数		



施設に採用されているエコアイテム

建物の屋根にショッピングセンターとしては東日本最大規模となる約600kWの太陽光発電設備を設置している。これにより共用部で使用する年間消費電力の約50%に相当する電力を発電できる見込みである。照明設備はLED灯具を原則とし、空調設備は発電機搭載型ガスヒートポンプ方式。駐車場には電気自動車充電スタンドを設置している。モール内のガラスの渡り廊下には消費電力抑え水蒸気により周辺の空気を冷却する効果があるドライミストを設置している。モール内には極力多くの植栽を計画し、自立型ポット緑化システムを一部採用している。フードコート北側の築山は「房総の丘」として房総地域に自生している植物を選定し植栽計画を行い、地域の郷土種への配慮を行っている。メインゲート、ノースゲートにはtent膜モニュメントと高木を配置しエントランスのしつらえとともにエントランス部分の防風効果を兼ね備えた設計を行っている。これらの技術は賑やかで飽きのこないショッピング空間の演出に一役を買っている。



フードコート



オーシャンビューテラス



ノースゲート（tent膜）



モール（緑化）



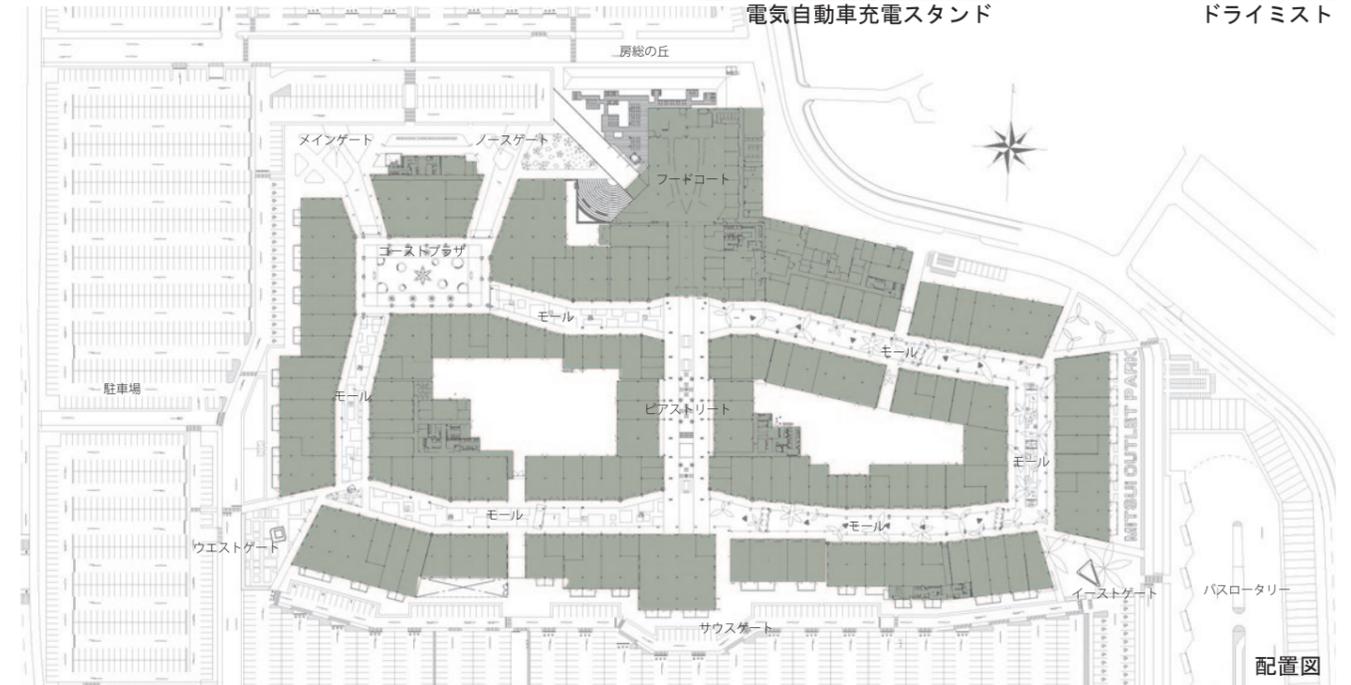
電気自動車充電スタンド



ドライミスト

設計担当者

設計担当者 建築：奥村浩和、渋谷京亮、馬場圭祐、道津空人
構造：土居和雅、吉田達哉／設備：羽出哲也、栗崎誠、坂東竜太
環境デザイン／ノンスケール株式会社
ランドスケープデザイン／株式会社スタジオゲンクマガイ



配置図

主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q3. 1. 生物環境の保全と創出（壁面緑化、地域の郷土種への配慮）
- Q3. 2. まちなみ・景観への配慮（新たなシンボルの形成、建物配置や形態の周辺環境との調和）
- Q3. 3. 地域性・アメニティへの配慮（豊かな中間領域の形成）
- LR1. 2. 自然エネルギー利用（太陽光発電、ハイサイドライト）
- LR1. 3. 設備システムの高効率化（LED照明、センサー制御、発電機能付GHP）
- LR2. 2. 非再生性資源の使用量削減（再生木ルーバーの使用）